

普及活動情勢報告（平成31年4月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

ミョウガ目慣らし会

・・・JA高知県宿毛支所ミョウガ部会・・・



4月12日、JA高知県宿毛支所販売課で、ミョウガの目慣らし会を開催し、管内生産者8名及び大方ミョウガ部会長が参加しました。生産者からは、県域JAでのプール計算の方法や、消費宣伝について意見交換が行われました。目慣らしでは、ミョウガの色づき度合いや、サイズ、反り方など、入念な確認を行っていました。農業改良普及課では、今後も関係機関と連携し、品質向上に向けて支援していきます。

ソラマメの有利販売に向けて・・・JA高知県幡多地区ソラマメ部目慣らし会・・・



4月10日、JA高知県幡多地区大方支所において、ソラマメ目慣らし会が開催され、生産者6名が参加しました。JA販売担当からは販売状況と出荷規格の説明を、農業改良普及課からは今後の灌水や病虫害防除に関する情報提供を行いました。その後、規格や箱詰め方法について「多く詰めすぎたね」とか「長いさやの並べ方はこうするのが良いね」などお互いに意見交換しながら出荷方法の確認を行いました。農業改良普及課では、今後もソラマメ生産者の確保と産地化について支援を行っていきます。

四万十市の農地を守るために

・・・四万十市集落営農組織連絡協議会・・・



3月20日、四万十市集落営農組織連絡協議会が開催され、6地区8組織19名が参加しました。四万十市から12月の島根県視察研修の報告を行った後、農業改良普及課からは、集落営農の現状（高齢化、後継者不足）と今後に向けた課題（更なる組織化、組織や地域を越えた連携の必要性）と県外の先進事例（広域連携等）を紹介しました。参加者からは、「地域の高齢化が進んできた」「組織化後の収入の確保に不安がある」といった声が出ました。農業改良普及課は、今後も地域営農を継続するための組織化や安定した組織運営に向けた支援をしていきます。

キュウリ現地検討会

・・・JA 高知県三崎支所園芸部キュウリ部会・・・



4月10日、土佐清水市生産者ほ場4カ所で現地検討会が行われ、生産者及び関係機関10名が参加しました。

種苗会社から、春先からの管理のポイントについて説明があり、生産者ほ場の状態に応じた改善点について検討しました。また、農業改良普及課からは、キルパーを使用した土壌消毒実証ほの調査結果について報告しました。

農業改良普及課では、作終了時の蒸し込み処理の呼びかけを行い、次作の黄化えそ病を低減できるよう働きかけていきます。

切磋琢磨して公社のユズ生産を上げよう！

・・・三原村農業公社ユズ剪定講習会・・・



4月12日、三原村農業公社ユズ園で、栽培第二班（6名）の剪定講習会を行いました。公社は今まで防除班、剪定班などの分業制でしたが、今年度から作業員の栽培技術向上を図るため、地域を3区分したブロック別の班で一貫管理を行うことになりました。第二班のメンバーは剪定作業の経験がほとんどないため、切り返し剪定と間引き剪定の説明や、ウイルス樹の診断など初歩的な講習を行いました。若い作業員さんが多いため、活発な質疑応答があり、概要は理解できたようでした。

農業改良普及課は、今後も作業員さんが理解しやすい指導を心がけていきます。

今年も高収量を目指そう！

・・・西土佐雨よけ米ナス現地検討会・・・



4月16日、四万十市西土佐地区で今年最初の雨よけ米ナス現地検討会が開催され11名が参加しました。今年は雨よけハウスでの栽培者が4名増えて12名、124aになりました。

会では定植後2週間～1ヶ月のほ場確認と、今後の管理について農家同士の意見交換が行われました。

農業改良普及課からは定植直後からの気象データと、今後の管理についての資料を配付し、説明しました。

農業改良普及課では、新規就農者を中心に栽培技術指導を行い、高収量を確保できる生産者育成に努めます。